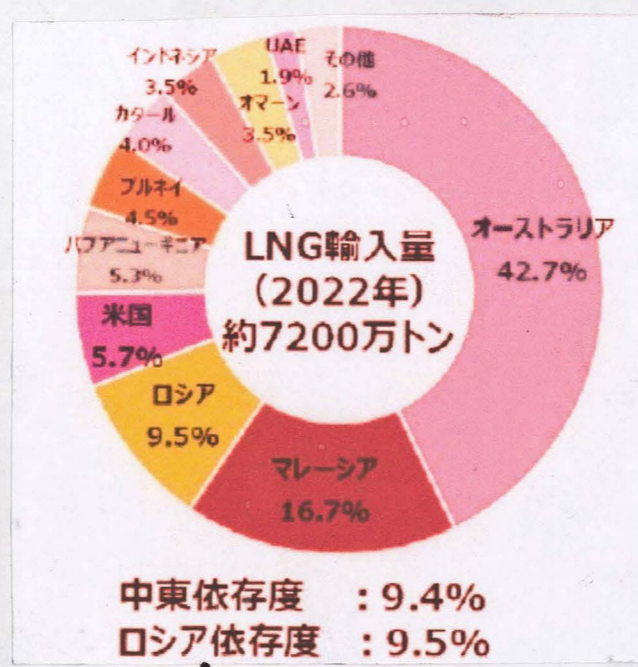


Liquefied Natural Gasの略
液化天然ガスは天然ガスをマイナス162度まで冷却して液化させたエネルギーで火力発電の燃料や都市ガスの原料として利用されています。日本ではほぼ全量のLNGを海外から輸入し、そのうちの約7割が火力発電の燃料となり、石炭や石油原産と比べLNGは日本人の暮らしに不可欠なものです。

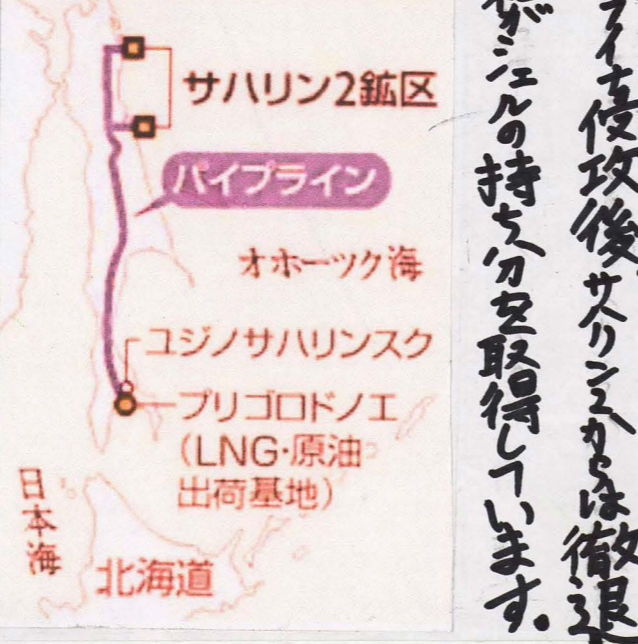
LNGは石炭や石油と比べて環境への負荷が少なく脱炭素社会の実現に不可欠な燃料です。
Xリット
Dexリット

◎安定供給できる
◎効率的な発電
◎輸送、貯蔵が可能
◎一定量の二酸化炭素排出
◎供給は輸入頼り
◎輸送貯蔵管理にコスト負担



4位ロシアに注目

ガスプロム (ロシア)	50%+1株
シェル (英国)	27.5%-1株 (撤退表明)
三井物産	12.5%
三菱商事	10%



天然ガス
石油
石炭

環境性
供給安定性
経済合理性

ナンバー1!!

2022年2月24日
LNG争奪戦は2025年頃まで続く

ウクライナ侵攻により世界的にエネルギー価格が高騰!! Shock!
2022年2月24日朝方時ロシアはウクライナへの本格的な軍事侵攻を開始しました。
どうして? 理由は2つです。1はアメリカやヨーロッパの国々で暮らす北米やヨーロッパの国々にはウクライナが加わるのを相対したため。2つ目はウクライナはロシアの地産地消の地ともいえる場所なのでロシアとウクライナは一体であるというウクライナに言っている間は聞かされたから。なげのタイミグ
T? ロシアは今年冬になると暖房に必要を天然ガスをやらないとウクライナに生かすをウクライナはウクライナが天然ガスをロシア以外からも入手するようになりおどろきの効果がなくなるとの軍事行動が手止りかなくなりました。
この侵攻によりアメリカやヨーロッパ、日本もロシアに押し付けられた。ロシアは反発することで大豆などの資源を凍らせた。ロシアからエネルギー資源が手に入りなくなり世界的に石油や天然ガスの値段上がり、世界中でLNG争奪戦が繰り広げられています。
その他、人々の食糧や生活への影響は? ロシアとウクライナは穀物をたくさん作って輸入して売るのでこの2ヶ国から小麦やトウモロコシが手に入らなくなるとアフリカの国などは食糧不足が起きています。
そのため、エネルギー資源と同じように小麦粉やパン、麺などが値上がりしています。穀物を手に入らない豚や牛などの畜産業にも影響が響いています。

日本のLNG輸入国が第4位となるロシアのサハリン島北東部沿岸に位置する石油および天然ガスなどの資源開発大型プロジェクトであり、従事業者は北緯を越えます。サハリン北東部のLNG生産施設に運ぶを強化し、専用タンカーで輸出します。日本と地理的に近いので生産されるLNGのおよそ8割は日本の電力会社やガス会社が長期契約を結んでいて、日本が輸入するLNGのおよそ1割を占めています。サハリン2のLNG生産量は年々増え、そのうち、日本は600万トン、輸入しています。2022年2月ロシアのウクライナ侵攻前はロシアのガスプロム社、イギリスのシェル社、日本は三井物産と三菱商事両社の合同事業でした。

<LNG船にまつ>

サハリンからのLNG輸送は専用タンカーを要する船舶のLNGはマイナス162度以下に冷やして液化し運ぶので温度管理が肝心です。一回の輸送で約10分積載します。船の長さ約300m、幅は約50mです。

ロシア→日本
サハリン
1ヶ月間は850kmにおよび、アムール川が流れる。サハリンが横濱まで3日かかります。他の国から輸入するよりも日数が短いです。

横濱港着

下記の船は独球型にはずす。夕方の周囲は断熱材に囲まれ、船体は二重船殻構造をとり、事故がタンクを保護しています。



編集後記

今回LNGについて調べると、最近切に感じたことは現在の世界情勢、環境問題、エネルギー資源と結びつき、しほりと理解を深めることでした。僕のお父さんはまさにそのサハリン2のプロジェクトに深く関わっている。2018年から2022年までサハリン2で働いていました。新船工コロシアスによるパンデミック、ウクライナ侵攻を経験しました。大変な中でも日本へ大事な資源を送るため、各国との交渉や調整を重ねていました。次資源が供給されるようには力なすが、今はいる人を知って、もういなくて今回LNGについて調べ、新聞に取り上げようと思っただ理由です。

LNG 出荷基地 プリゴドノエ港

撮影時 2022年3月
偶然 LNG船が 手前は東オホーツク海
出航間近なところを見るのが出ました。この日は最高気温が-10度。これは対寒い方です。サハリンの冬は寒さが厳しいですがウクライナは放火で年々燃料不足が懸念されています。